

「効率化を追求する経営は曲がり角に」とJFEスチール林田社長

シリーズ 1 経営が「曲がり角」とはどういうことか

JFEスチール林田社長は、今年3月の日本鉄鋼協会主催の講演会で「効率化を追求する経営は曲がり角にきているのではないか」という重大な指摘をしました。「曲がり角とはどういうことか」「どう曲がればよいのか」をシリーズで考えて見たいと思います。

林田社長が講演

「効率化を追求する経営は曲がり角に」

林田社長は、「効率化を追求する経営は曲がり角にきているのではないか。効率を犠牲にしてでも人材を育てる、技術を高めることが経営に求められている」と述べ、その対応策を示しました。

会社のいう「効率化を追求する経営」とは、

賃金抑制・要員削減・外注化など徹底したコスト削減で最大限の利益を追求するものです。「曲がり角」とは、いったいどういうことなのか。「どう曲がるのか」は、私たち働く者にとって重大な問題です。

「曲がり角」とはいったい何なのか

リーマンショック後の世界経済の回復傾向と、震災後の国内の鉄鋼需要の増大により、新日鉄住金や神鋼は、生産と利益を大きく増やしました。

しかし、鉄鋼大手でひとりJFEは、思うように増産できず、粗鋼シェアを落と

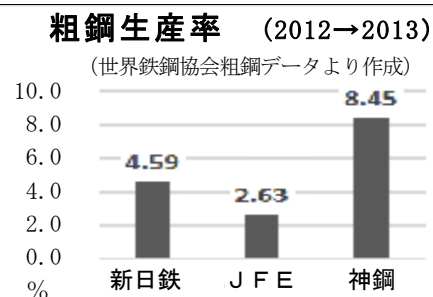
し、利益を大きく伸ばすことができず、「新日鉄住金に対して見劣りする」

(林田社長)とっています。

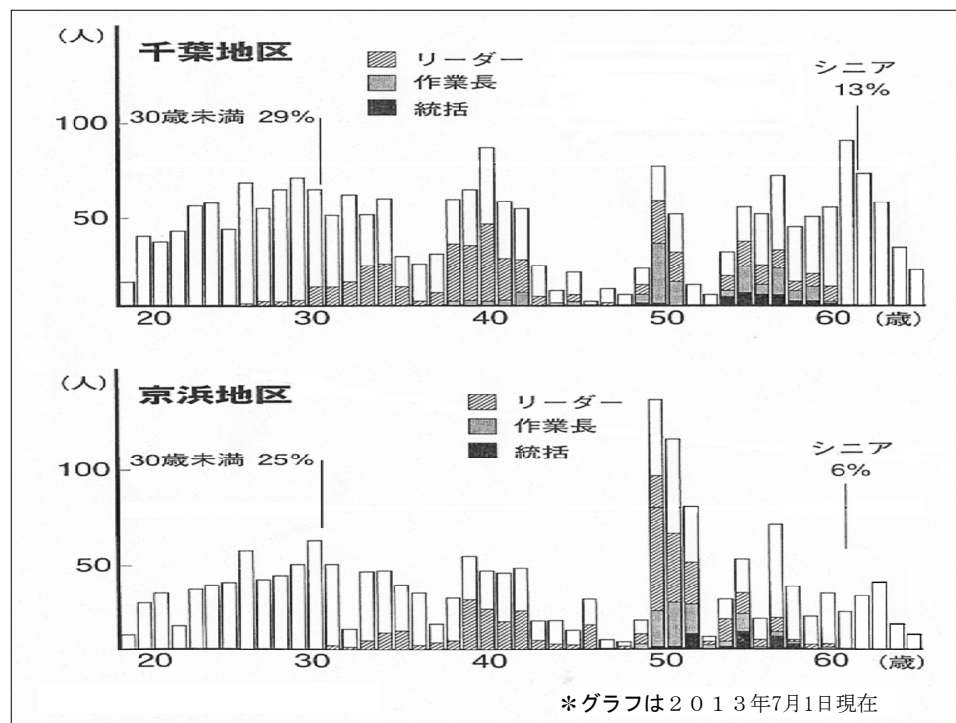
会社は、需要が増えた時に、利益を増やすための増産・安定操業ができなかったことが最大の原因である、としています。

なぜ、安定操業ができなかったのか

経常利益 (2013年度決算)
JFEスチール: 1,262億円
新日鉄住金: 3,212億円 (製鉄連結)



会社が安定した採用をしなかった為の年齢構成の偏り
(東日本製鉄所所内報 2013年秋号より作成)



「効率化を追求する経営」が利益を生み出さなくなった

JFEは、「効率化を追求する経営」で最大限の利益を追求し、発足以来膨大な利益を上げてきました。

しかし、利益拡大のチャンスに増産ができず「効率化を追求する経営」そのものが利益を増やす妨げになっていることに、会社は気

づいたのです。

では、どうすれば良いのでしょうか。

「効率化を追求する経営とはどんなものだったのか」、「それがなぜ曲がり角にきたのか」を、シリーズ2で明らかにしたいと思います。

「京浜の高炉」

2014年10月10日

ホームページをリニューアルしました、ご覧下さい

「しんぶん赤旗」日刊紙・3,497円/月、日曜版823円/月

日本共産党京浜製鉄委員会

TEL 044-233-7730 ホームページ <http://keihin.jcpweb/>
FAX 044-211-4891 Eメール cp-keihin@nifty.com